

事業名称	よこはま縁むすび講中		
実行委員会	よこはま縁むすび講中		
中核館	横浜市歴史博物館		
	住所	〒224-0003 横浜市都筑区中川中央 1-18-1	
	TEL	045-912-7777	FAX 045-912-7781
	ホームページ	https://www.rekihaku.city.yokohama.jp	
構成団体	横浜市民ギャラリーあざみ野、みどりアートパーク、大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、横浜市ふるさと歴史財団		
事業開始時点の課題分析	<p>横浜市北部地域の文化的活動としては、横浜市歴史博物館が中核となって取り組んできた「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会」があり、地域文化遺産の活用や地域における担い手の育成など、一定の成果をあげてきました。しかし一方で、「歴史」に偏った部分や地域がまだ限定的で、より広範な価値共有が課題として残っていました。また、新型コロナウイルス感染症の流行による人々の行動および関心の変化をふまえた地域連携のあり方やWEB活用の推進を新たな課題と捉えました。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は大きく分けて次の3点です。</p> <p>1点目は、中核館としての取り組みによって構築してきた面的ネットワークの拡充・立体化です。ただし、人口376万人を抱える横浜市全域を対象エリアとして広げるのではなく、利用する鉄道網や買物先や勤務先といった生活圏が共通する旧港北区(現在の港北区、都筑区、緑区、青葉区で人口は約100万人)を対象とし、地域に存在する文化遺産を共有する地域文化圏の形成を目的とします。</p> <p>2点目は、団体や活動場所の相互紹介を目的に、対象エリアを生活圏とする人々に対し、地域文化の普及啓発を目的としたワークショップ等を開催し、取組自体を情報としてウェブサイトを通じて発信していきます。</p> <p>3点目は、地域文化圏の形成を進める取組において「歴史」も含めた多様な地域団体や分野とも連携し、地域文化の総合的(学際的)な再発見に結び付けることを目的とします。コロナ禍によって草の根的に展開してきた多くの団体が活動の停止や大幅な縮小を余儀なくされており、解散・消滅を迎える前に、現状に合わせたイベントや活動舞台のマッチングを図ります。</p>		
事業概要	<p>本事業は、構成事業順に次の3つからなります。</p> <p>(1) 地域の文化遺産魅力発信事業</p> <p>対象エリアの各区の中心となるハブ施設として、緑区：みどりアートパーク、青葉区：市民ギャラリーあざみ野、港北区：大倉精神文化研究所、都筑区：横浜市歴史博物館を設定し、本事業での支援を希望するイベント運営団体に施設や活動場所の提供を主に行うほか、企画の立案やPR活動等に対するアドバイスなど、運営に関する全般的な支援を行います。また、企画や団体の規模に合わせた活動場所が選択できるよう、団体と活動場所をシェア・マッチングするための「よこはま縁むすび(仮称)」ウェブサイトを立ち上げます。</p> <p>(2) 地域文化普及啓発事業</p>		

	<p>(1) で取り組む「よこはま縁むすび(仮称)」ウェブサイトや各団体が実施するイベント等を通じて、対象エリアに存在する、享受することができる、歴史やアート、食やものづくりといった魅力の発信を行い、ウェブサイトを通じたマッチングを図ります。</p> <p>(3) 多分野連携事業</p> <p>①対象エリアにおける交通インフラと本事業自体のマッチングとして、中核施設である「横浜市歴史博物館」の最寄駅「センター北駅」の鉄道事業者である横浜市交通局と連携します。新型コロナウイルスの流行を背景に人の移動と「三密」を避けながら観光を楽しむ手段として注目が集まる「マイクロツーリズム」の視点を取り入れ、新たな地域文化への親しみ方を提案する事業です。②団体や活動場所の連携促進とメディア活用支援として、横浜を中心とした幅広いネットワークと情報発信力をもつ地元メディアを中心としたコンソーシアム「横浜メディアビジネス総合研究所(以下、YMBL)」と協働することによってWEBやその他メディアを通じた団体交流や情報発信を促進し、博物館機能を強化します。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. よこはま縁むすび講中推進プロジェクト</p> <p>(1) WEBを通じた横浜北部4区の歴史文化つながり可視化 (地図上に区域の枠を超えた旧道や河川および点在する地域文化遺産を表示する)</p> <p>①ウェブサイトの制作 ②リーフレットの制作</p> <p>(2) 各地域での地域文化資源を活用した活動</p> <p>①(緑区)小・中学生を対象とした協働作品制作 ②(青葉区)学習講座、協働展示制作、地域連携YouTube動画制作 ③(港北区)小机城をテーマにした上映会、チャンバラ合戦、ガイドツアー ④(都筑区)「かやぶき屋根プロジェクト」体験・学習プログラム</p> <p>(3) シンポジウム</p> <p>①シンポジウムの開催</p> <p>2. 他分野との連携</p> <p>(1) 交通機関やメディアとの連携</p> <p>①交通機関(横浜市交通局)との連携 ②メディア連携</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業で目指した取り組みは、大きく①エリアの横断と②分野の横断と整理することができます。①エリアの横断は、中核館の横浜市歴史博物館がある都筑区を中心として、これまでも取り組んできた地域文化遺産の活用をさらに周辺地域に拡げることや活動や参加者の往来がおこること。また、②分野の横断は、「歴史」に偏る部分があった取り組みを芸術やアート、その他のメディアや産業などの分野との交流がおこるなかで、より身近に地域文化に触れられる機会と捉えます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、規模を縮小、またはオンラインに切り替えざるをえなかった各事業を、生活者目線でレポートする市民ライターを擁する地域メディアが記事にまとめ、ウェブサイトにて公開するとともに、本事業の概要を一目で紹介するツールとしてのリーフレットを作成しました。</p> <p>本事業で実施した講座やワークショップの参加者は、比較的近い範囲からが多く、特に今回設定した横浜北部4区(旧港北区:港北区、緑区、青葉区、都筑区)からが多数を占めていました。地域文化を題材とした内容をうけて、70%以上の方が土地や地域への</p>

関心が高まったことがアンケート結果からも見て取れますが、4区に分区した後に生まれた世代の子どもたちは、ほとんどが元々1つの区だったことを知らない（20%以下の認知度）という結果もあり、事業を通じて地域のつながりを感じられたのではないかと思います。（参加して土地や地域への関心の高まりは75%にのびりました。）

事業ではガイドツアーが区域を超えていき、別の場所で採取された土を素材としたアート作品が巡回展示をしました。小学校低学年から70歳以上まで幅広い地域住民が参加し、比較的高齢の参加者に偏りがちな地域文化という題材にアートやアニメーションという分野が加わることで、若い世代の参加につながったと考えられます。

活動団体が一同に会したシンポジウムは、残念ながら無観客による後日配信形式となりましたが、無意識に区域に縛られていた部分を超えて発想するきっかけとなったという意見もあり、ゆるやかな連携の意義を再確認することができました。

交通インフラ、地域メディアとの連携では、ともすると活動団体自身は活動主体で広域な情報発信が難しいという課題がありましたが、シンポジウムを中心に、「地域まるごと博物館」というキーワードで神奈川県内の先行事例とのつながりを見据えることができました。

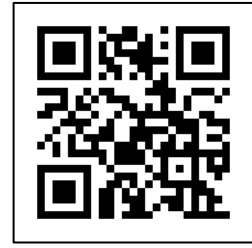
【事業実績】

1.よこはま縁むすび講中推進プロジェクト

(1) WEBを通じた横浜北部4区の歴史文化つながり可視化

- ① ウェブサイトの制作 ⇒ <https://www.yokohama-enmusubi.jp>
- ② リーフレットの制作

生活者目線でレポートする市民ライターを擁する地域メディアによる記録記事の掲載、本事業の概要を一目で紹介するツールとしてのリーフレットを作成。



◎地域の歴史文化つながりマップ



◎事業レポート

(2) 各地域での地域文化遺産を活用した活動

① (緑区) 小・中学生を対象とした協働作品制作

● 「土遊び～土で絵を描くワークショップ」の実施

市内小・中学生を対象に、自分たちが生活する土地の土を使って、土を育む森や森に住む生き物たちを描くワークショップを実施した。土の採取、森での学びを通して得たイメージを絵に落とし込んでいく。体験を伴うことで、関心と満足度の高いプログラムとなった。



◆参加者の声

- ・土絵具だけでたくさん色の種類があってすごかった
- ・灰や炭でも絵具が作れるんだ！と知れた
- ・土のことははじめから学んで土がとても好きになりました
- ・いろんな土があるなと思った

② (青葉区) 学習講座、協働展示制作、地域連携 YouTube 動画制作

● 学習講座「青葉区の大山街道を知る」の実施

座学と散策を組み合わせることで、地域を走る古い街道とその背景を学び、実際に歩くことで現在も残る史跡に触れ、学びを深める機会となった。



◆参加者の声

- ・知らなかった地域の歴史、楽しかったです。
- ・身近な場所の歴史を深く知ることができてよかったです。

● 協働展示制作「自分の思いと写真」～横浜市立山内小学校5年生 写真と俳句展～の実施

市内小学校と連携し、アウトリーチプログラムとして子どもたちはカメラを使った日常の切り取り方を学び、また国語の「俳句」の授業と組み合わせ選んだ写真に俳句をつけて展示した。子どもたちの瑞々しい感性が感じられ、地域の宝ものが掘り起こされるプログラムとなった。

●地域連携 YouTube 動画制作

「横浜・あざみ野『アートフォーラム通り』の施設・お店紹介」:<https://youtu.be/J8EH0fvjhwA>

横浜市民ギャラリーあざみ野その他周辺施設について、地域連携を形にするためにアートフォーラムあざみ野を起点として、近隣各施設を紹介する YouTube 配信を実施。計画当初は「地域連携スタンプラリー」としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大につき、Web での展開に変更された。11 団体が参加し、動画撮影に協力いただいた。

③(港北区)小机城をテーマにした上映会、チャンバラ合戦、ガイドツアー

●漫画紙芝居「小机の重政」上映会の実施

既に制作されていたヴォイスドラマ「小机の重政」に地域の小学生による紙芝居をあわせて上映会を実施。子どもたちの絵がドラマに使われたので嬉しかったという参加者の声もあった。また、3 回目の上映会では、県立神奈川工業高校デザイン科の生徒によるアニメーションが上映され、地元の参加者にも非常に喜ばれるプログラムとなった。

神奈川工業高校生徒の発表



●「小机城秋の陣～親子で楽しむチャンバラ合戦～」の実施

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により規模縮小版「甲冑を来て模擬体験」として実施
空堀からの攻めと守り、長槍での戦い方などを現場で行うことにより、城のつくり方の工夫を感じられる貴重なプログラムとなった。

●「小机城ガイドツアー」の実施

全 5 回のツアーを通して、小机城の関連史跡をめぐり学びを深めることができた。港北区、都筑区のほか、他地域まで対象を拡げて地域文化遺産の魅力を知る非常にバラエティ豊かな人気のプログラムとなった。

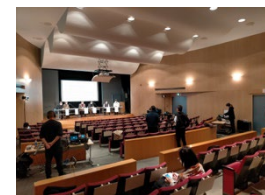


◆参加者の声

- ・深い空堀にびっくりした。
- ・道灌がすぐに城を落とせないのがわかった。

④(都筑区)「かやぶき屋根プロジェクト」体験・学習プログラム

横浜市歴史博物館に隣接する「大塚・歳勝土遺跡」の復元建物の茅葺屋根を市民ボランティアとともにメンテナンスするプログラム。茅の活用、茅葺屋根の保存とともにより多くの人を楽しみ、学びながら活動できる場の創出となった。



(3) シンポジウム

①シンポジウムの開催

新型コロナウイルス感染症拡大のため、無観客での開催とし、収録した映像を後日 YouTube にて配信。基調講演では、神奈川県下の先行事例との類似性とともに本事業の独自性に対する期待が語られた。またクロストークでは、本事業が無意識の枠組みに気付かされそれを越えて発想するきっかけになったという声が聞かれた。

市営地下鉄内ビジョンの掲載



新聞特集記事の掲載



2. 他分野との連携

(1) 交通機関やメディアとの連携

①交通機関(横浜市交通局)との連携

②メディア連携